

農学職

和歌山県の農業は果樹の産出額が約7割を占めるため、園芸農業を中心とした農業施策を進めています。

農業の振興や農家所得の向上のため、本庁において農業振興の方向や産地のあり方、担い手対策、農地の活用など企画立案し、試験研究機関での新品種の育成や栽培技術の研究開発をはじめ、普及指導員による農家に対する生産技術や農業経営の指導、農業教育機関において担い手育成を行うなど収益性の高い農業づくりを進めています。

主な配属先

本庁	農林水産総務課、食品流通課、果樹園芸課、経営支援課等
地方機関	各振興局農業水産振興課、農業試験場、暖地園芸センター、果樹試験場、かき・もも研究所、うめ研究所、農林大学校、就農支援センター

キャリアパスモデル

主な役割 ※当モデルはあくまで一例です

20代
技師
副主査

公務員としての基本的な知識の習得、担当業務の確実な実行、収集した知識の担当業務への活用、課題解決への提案など

30代
主査

担当業務に対する効率化・改善、適正な進行管理、後輩職員への指導

40代
主任
班長

班・グループ内の担当業務に対する効率化・改善、適正な進行管理、マネジメント

50代
課長等

課の目標・成果の設定・政策決定、課員の評価・人材育成、職場環境づくり

「オリジナル品種」

農業関係の試験研究機関については、長期的な展望で取り組む課題として新品種の育成があり、特に果樹関係の新品種の育成だと20年以上の年月を費やすこともあり、何人も研究員が関わり和歌山県のオリジナル品種を育成したということもあります。

新たな病害虫の防除対策は、短期的に取り組まなければいけない課題であるので、複数の研究機関で横断的に取り組んだり、国の研究機関や大学などとも連携して研究に取り組んだりします。また、新たな栽培方法の確立などの研究は、既成概念にとらわれない発想やきめ細かな観察眼が必要とされる業務です。

「農業・農村地域活性化」

農業関係の普及業務とは、試験研究機関が開発した新しい技術の普及、農業経営へのアドバイス、担い手の育成、各種行政施策の推進などを行っています。経営支援課、農林大学校、各振興局農業水産振興課に普及指導員を配置し、農業・農村地域活性化に向けた活動を展開しています。

現場で直接農家の方と話す機会も多く、新しい情報や課題を収集することも、重要な業務となっています。幅広い知識や経験を生かせる職場であり、入庁まもない若手にとって、いろいろな経験ができる職場でもあると思います。



那賀振興局 農業水産振興課

嶋本 旭寿 副主査

平成29年度採用

これまでの経歴

H29～H30年度 経営支援課農地活用班
R1～R3年度 農業試験場栽培部
R4年度～ 那賀振興局 農業水産振興課 普及グループ

1日の流れ

8:40	9:30	12:00	13:00	14:00	17:45
出勤	農家訪問	昼休憩	相談対応	職場で作業	退勤
・メール チェック	・農家訪問		・就農希望者 相談対応	・補助金交付事務 ・栽培講習会資料作成	

WORK

担当した仕事の内容・魅力

私は入庁後、経営支援課農地活用班で荒廃農地に関する調査業務を2年間担当しました。自分がとりまとめた調査結果が和歌山県の実値として国で公表されるため、やりがいと責任感がありました。その後、農業試験場栽培部に異動になり、県育成イチゴ品種「紀の香」の優良苗生産技術の開発や、業務用ナバナの品種比較試験を3年間担当しました。品種比較試験で選定した品種が県内の主力品種として栽培されるようになった時には、それまでの苦労が吹き飛ぶほどの達成感がありました。そして現在は、那賀振興局農業水産振興課で野菜・花き・作物の普及業務や担い手対象の補助金交付事務を担当しています。個別巡回や栽培講習会の開催を通じて、農家さんの栽培技術の向上と安定生産を目指して活動しています。農家さんとの距離が近いため、「ありがとう」と言っていただけの機会が多く、非常にやりがいを感じています。



メッセージ

私は民間企業を経験した後、県庁に入庁しました。以前の職場では日によって出退勤時間が大きく変動し、流されるまま仕事をしていました。一方、県庁では比較的自分のペースで仕事を組み立てることができるため、家事や育児、趣味と両立させることが可能です。親切的先輩が多く、業務を進める上で役立つ研修(農家研修など)が体系化されているので、安心して働けると感じています。

LIFE

私のわかやまライフ

趣味は家庭菜園で、5aの畑で20品種以上の野菜を育てています。試験場や農家さんから学んだ栽培方法を試してみたり、毎年テーマを決めて試験栽培しています。実際に自分で育ててみることで、栽培技術の向上はもちろんのこと、病害虫や生理障害にも詳しくなり、農家さんとの会話のネタには困らなくなりました。仕事を趣味に、趣味を仕事に活かしているため、充実したワークライフを送れています。



果樹試験場 うめ研究所

柏木 悠里 研究員

令和2年度採用

これまでの経歴

R2～R3年度 日高振興局 農業水産振興課 総務・振興グループ
R4年度～ 果樹試験場 うめ研究所

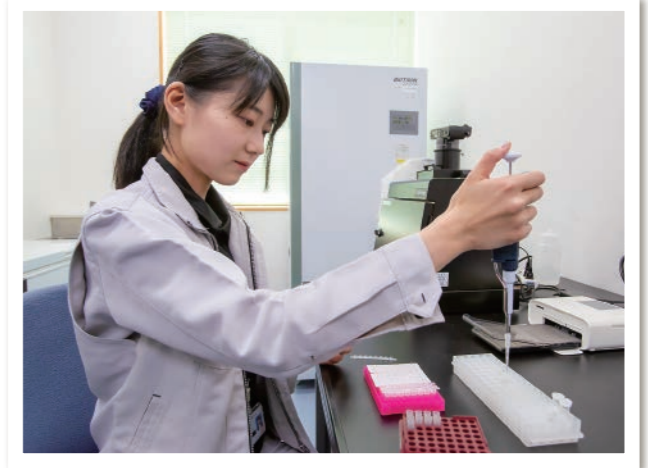
1日の流れ

9:00	12:00	13:00	14:00	15:00	17:45
出勤	分析作業	昼休憩	事務作業	分析作業	職場へ移動
・害虫防除の試験に係る調査、 分析			・メールチェック及び 事務処理	・栽培研究に係る 調査、分析	・試験準備、資料作成

WORK

担当した仕事の内容・魅力

果樹試験場うめ研究所では、ウメの生産技術の開発や新品種育成、病害虫防除などの研究を行っており、私は現在、主に「露茜」の栽培研究と重要害虫クビアカツヤカミキリの侵入警戒を担当しています。「露茜」とは果皮及び果肉が赤く着色するウメの品種で、近年県内で栽培面積の拡大に伴い、より良い栽培方法の確立が望まれており、その研究をしています。クビアカツヤカミキリは平成30年に特定外来生物に指定された、ウメ等バラ科樹木を枯死させる害虫です。この害虫のウメ主産地への侵入を警戒するため、巡回調査を行っています。研究業務では栽培管理や試験方法の検討など、新たに勉強することや試行錯誤することが多くありますが、日々出来ることが増えていくことが面白いと思います。実際に体を動かす作業や、継続して細かい作業をすることも多く、大変と感じる時もありますが、研究の成果がこの地域の産業の振興に繋がるため、やりがいがあります。



メッセージ

農学職には栽培分野だけでなく農に関する様々な専門分野の人がいて、それぞれの知識や経験を活かして業務を行っています。加えて農学職は、行政、研究、普及など業務形態が幅広く、色々な形で和歌山県の農業の発展に携わることが出来るのが魅力的だと思います。

LIFE

私のわかやまライフ

休日は基本的に読書や手芸などをして、家でくつろいで過ごすことが多いですが、時々遠出をして博物館や植物園を見て回ったりしています。土日祝日はきちんと休めますし、有給休暇も取得しやすいため、家族や友人と予定を合わせて遊ぶことも難しくなく、充実した日々を過ごせます。